

1. 平成 19 年度当初予算編成について

【国の状況】

平成 19 年度においては、極めて厳しい地方財政の現状等を踏まえ、歳出面においては、「基本方針 2006」(平成 18 年 7 月 7 日閣議決定)に沿って、歳出全般にわたり見直しを行うことにより歳出総額の計画的な抑制を図る一方、活力ある地方を創るための施策等に財源の重点的配分を図ることとし、歳入面においては、地方税負担の公平適正化の推進と安定的な財政運営に必要な地方税、地方交付税などの一般財源総額の確保を図ることを基本とするとともに、引き続き生ずることとなった大幅な財源不足について、地方財政の運営上支障が生じないよう適切な補てん措置を講ずることとしている。

【燕市の状況】

平成 18 年度当初予算で基礎的収支をみると 7 億 9,700 万円歳出が上回っている。それに加え、一般財源の不足を補うため財政調整基金 5 億 3,500 万円を組み入れる等、財源確保のための措置を行った。歳入においては、税制改正による税収の上向き傾向は見られるが、国の三位一体改革から引き続き補助金の廃止及び縮小並びに交付税及び交付金等の削減による一般財源収入の大幅な減額に加え、歳出においては高齢化による福祉関係予算の増加や道路及び学校施設整備など合併特例債事業を中心とした事業の拡大並びに特別会計への繰出金の増額など財源確保が極めて厳しい状況となっている。

【予算の編成】

このような厳しい市の財政状況の中、平成 19 年度当初予算の編成にあたり、一層の創意と英知を結集し、市としての一体性の促進と費用対効果を考慮し、事業の実施内容や手法等を根底から見直すこととする。また、財政調整基金等の財源は限られており、その年度の歳入に見合う歳出とするよう自主財源の確保及び経常的経費の節減に努めるとともに、限られた財源を有効的に活用し、市民全体の福祉の増進に向け、計画的・効率的に配分することを目標として編成を行った。